



平成20年度犯罪のない  
安全・安心まちづくり功労者表彰  
安全・安心まちづくり奨励賞

# 活動事例集



# はじめに

神奈川県では、犯罪のない安全で安心な地域社会の実現に向け、「県民総ぐるみ」運動を展開し、犯罪の発生する機会を減らすための取組みのよりどころとして「神奈川県犯罪のない安全・安心まちづくり推進条例」を平成17年4月に施行しました。

県では、この条例に基づき、長年にわたり、犯罪のない安全・安心まちづくりの活動に尽力し、その功績が顕著な個人・団体への「功労者表彰」と、犯罪のない安全・安心まちづくりのモデルとなるような実践的な活動で、地域社会への貢献度が高いと認められる個人・団体への「奨励賞」の二つの制度を設けております。

平成20年度は「功労者表彰」として4人の方と1団体が、「奨励賞」として2人の方と3団体が、2月10日に横浜市内で開催された「安全・安心まちづくり県民大会」において表彰されました。

この「犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰、安全・安心まちづくり奨励賞活動事例集」は、今回表彰されました方々の活動内容を取りまとめたものです。

県民の皆さんにおかれましては、地域における「犯罪のない安全・安心まちづくり」の推進の一助として、この活動事例集を活用していただければ幸いです。

## 目 次

### 《犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰》

岡田 忠男 氏（横浜市栄区） .....	1 頁
白垣 一久 氏（藤沢市） .....	2 頁
藤平 保之 氏（横浜市中区） .....	4 頁
若井 成子 氏（秦野市） .....	5 頁
イトーピア葉山自治会（葉山町） .....	7 頁

### 《犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞》

金子 虎之助 氏（平塚市） .....	8 頁
田邊 精一 氏（横浜市港北区） .....	10 頁
石神台ガーディアン（大磯町） .....	11 頁
岩原暫金時隊（南足柄市） .....	13 頁
本郷台自治会（横浜市栄区） .....	15 頁

（個人・団体・50音順）

# 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

おかだ ただお  
**岡田 忠男 氏** (栄防犯指導員連絡協議会会長)

活動地域：横浜市栄区

## 1 活動地域の特徴

私の住む栄区は、横浜市の最南端にあり、鎌倉市と戸塚区と金沢区に隣接しています。昭和61年11月に戸塚区から分区になって出来た歴史の浅い新しい区です。区内には、JRの大船駅(笠間口)と本郷台駅があり、東京や横浜の中心街へ通う通勤、通学の人達のベッド・タウンとして年々人口も増えて来ています。駅前にはパチンコ屋や飲み屋街も無く、区のキャッチフレーズは「川と緑のある町」で中央部をいたち川が流れ、県営の自然観察の森や円海山に続くハイキングコース等がある静かで、平和な町です。しかし、こんな平和な栄区でも犯罪は発生します。

## 2 防犯活動を始めた経緯

神奈川県での犯罪発生件数のピークは、平成14年で19万件でした。

栄区でも15年に一度減ったのですが、16年に又ピークが来ました。ひったくりや空き巣、車上狙いが多く発生し、中でも栄署が認知したひったくりの総数65件の中の約半数の33件が私の自宅のある笠間田立町内会とその周辺で起きていました。

当時の私は栄区の防犯指導員の会長になったばかりで、まず町内の役員達にパトロール隊の立ち上げを呼びかけました。

## 3 防犯活動の内容・方法

昼と夜の一日2回のパトロールを毎日実施する為には、役員だけではとても数が足りないので、一般の町内会員にもボランティアでのパトロール参加をお願いしました。

幸いな事に、町民たちも毎日の様に大きな音で音楽を鳴らし、町内を走り抜け、細い道でもスピードを落とさず、走り回るバイクを見て、危機感を感じていたのか約50名のパトロール隊員が集まりました。昼の部は2時～4時に防犯

ベストを着用し、4～5人が一組になって徒歩で巡回し、笠間小学校付近では下校時の子供達を見守り、夜の部は車で防犯テープを流しながら8時～9時30分頃まで町内の神社境内、公園、いたち川沿いのウォーキングコース、月極め駐車場等暗い場所を中心にパトロールしました。

## 4 防犯活動の成果

パトロールを開始するとすぐに、走り回って来るバイクと良く出会いました。最初は、パトロール隊が持っている赤色棒(チカチカと赤く点滅する長い棒状のライト)を見つけて警察の検問と間違えスピードを落とし、爆音も抑え気味で走って来ましたが、すぐに見破られ、パトロール隊のすぐ近く迄寄って来て空ぶかしをしたり、威嚇する様に睨み付けたり、パトロール隊を見つけても無視してスピードを落とさず走り去ったりの繰り返しでした。

もちろん栄署のお巡りさん達も、検問やパトカーでの巡回の他、栄署の中に出来た「ひったくり特捜班」のお巡りさん等は、休日返上で田立町内会に入って来てくれました。面積もそれ程広くない町内会の中に、大勢のお巡りさんが入って来るのでパトロール隊が巡回する間にもあちらこちらで何組ものお巡りさんと会います。挨拶をしたり、情報交換する話題の中に、バイクグループの中の2人の男が浮かんで来ました。1人は黒のヘルメットを真っ二つに横に切ったようなツバなしのヘルメットをかぶって、青色の車幅灯をつけた大型バイクに乗っている男で、もう1人は、ノーヘルでいつも長めの白いダウンコートを着た角刈り頭で体格の良い男です。

こんな厳戒態勢の中でも我々をあざ笑う様にひったくりは続きました。昼のパトロールと夜のパトロールの間隙をつかれ、夕方の6時～7時に襲われたり、朝の通勤時間にも発生する様

になり、明らかにマークしていたオートバイグループとは違う手口や人相のグループ迄出てきました。

こんな状態が約半年続いた12月に栄署の「ひったくり特捜班」がマークをしていた2人の中の1人を捕まえ、芋づる式に5人の犯人グループを逮捕しました。新聞にも載ったので記憶している方もおられるかも知れませんが、栄、大船、戸塚、港南、などを舞台に300件以上のひったくりを繰り返していました。このニュースは、すぐ他のグループにも流れたのか、これ以後、栄区では1年と1ヵ月「ひったくりゼロの日」が続きました。

結果が出て栄署の「ひったくり特捜班」は解散をしましたが、田立町内会のパトロール隊はその後にも継続し、毎日昼夜2回ずつのパトロールを続けています。今年の6月で5年になりますが、田立町内会では、ひったくりが無くなっただけでなく、空き巣も車上狙いの被害も出ていません。

## 5 今後の課題、抱負

しかし、近くの町内では今も、空き巣や車上狙いが発生しています。パトロールを止めれば、私達の町内でも又、犯罪が起こります。そうさせない為にもパトロールは続けなければいけないのですが、マンネリ化と効果が出すぎて何も起きない為、パトロール隊員が止めていき

ます。町内会の役員達は高齢者が多いのもう少し若い隊員が引き継いでくれると助かるのですが・・・。

現在、栄区には90の町内会・自治会があります。この中で自衛のパトロール隊を持っている町内会は、約40町内会です。持っていない町内会の事情はいろいろ有ると思いますが実行すれば防犯パトロールは必ず効果が出ます。

すべての町内会がパトロール隊を持ち「自分達の町は自分達で守ろう」が実践出来れば理想的なのですが、せめて連合単位でパトロール隊を作り、区内のどこへ行ってもパトロール隊がうろうろして下見も実行もし難い環境が作れたら、ゼロにならないまでも犯罪の少ない本場に静かで平和な栄区が出来るのではないかと願って活動を続けていきます。



研修会での岡田忠男氏

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

しらがき かずひさ  
**白垣 一久 氏** (六会地区旭ヶ丘自治会会長)

活動地域：藤沢市

### 1 活動地域の特徴

私たちが活動する六会地区は、藤沢市の中部に位置し、境川を挟んで東は横浜市戸塚区に接している。

歴史的には、昭和17年3月に藤沢市と合併した町であり、農業、工業、住宅地がバランス良く調和しながら発展してきたが、近年、隣接地

域への横浜市営地下鉄線及び相模鉄道いずみ野線の乗り入れ等に伴い、住宅化が急速に進んでいる。

交通機関としては、地区の中央部を小田急電鉄江ノ島線が南北に走り、同線の六会日大前駅がある。

地区内の教育施設は、市立小学校5校、市立



中学校1校、県立高等学校及び養護学校が各1校、私立高等学校と大学が各1校ある。

平成21年1月1日現在、14,419世帯、人口34,469人が居住している。

## 2 防犯活動を始めた経緯

私は、平成3年4月から平成17年3月までの14年間、六会地区防犯協会の役員（うち会長職11年）として防犯活動に携わっており、役員を退任後も引き続き防犯リーダーとして、防犯パトロール活動に参加している。

平成16年度に、藤沢市が「犯罪のない安全な町への対策」を市政運営における重点施策の一つに掲げ、防犯協会などの地域の団体や市民が行うパトロール活動への支援を打ち出した。そこで、市内の他地区に先がけ、当六会地区がそのモデル地区となり、当時、私が六会地区防犯協会の会長であったことから、先頭に立ち、平成16年7月に「防犯パトロール隊」を立ち上げた。立ち上げにあたっては、「地区内の総力を結集しよう」、「多くの人に参加してもらえようようにしよう」と思い、「長続きする方策を考えよう」と思い、地域で活動している団体をはじめ、学校・PTAなどに参加を呼びかけ、約400名の参加登録者を集めスタートすることができた。

## 3 防犯活動の内容・方法

＜防犯パトロール隊について＞

### (1) 特色

パトロールには、様々な活動を行っている団体のメンバーが参加していることから、パトロールを通じてお互いの活動を知ることができること、また、パトロールをしながら、ごみ拾いなどの環境美化活動、交通危険箇所などのチェック、あいさつ運動を行っていることなどが特色として挙げられる。

### (2) 実施時期と内容

- ・地区内を11班に分け、一週間に日を変えて4つの班がパトロールを実施。
- ・午後7時頃から開始し、概ね1時間30分程度実施。
- ・パトロールに拍子木を取り入れている。

### (3) 参加人数

- ・登録者は、約400名。

- ・1回のパトロールには、約25名参加。

### (4) 参加団体

地区内の防犯協会、自治会連合会、生活環境協議会、交通安全対策協議会、青少年育成協力会、社会福祉協議会、防災リーダー連絡会、民生委員児童委員協議会、くらし・まちづくり会議、小学校・中学校・高等学校の教職員・PTAなど。

## 4 防犯活動の成果

### (1) 犯罪発生件数の減

防犯パトロールを開始する以前の平成15年の六会日大駅前交番における刑法犯発生件数は、596件であったが、平成19年には278件に激減している。

### (2) 住民の防犯に対する意識の向上

「夜間だけでなく、昼間もパトロールをやる」と地域の住民が立ち上がり、有志による昼間のパトロールが随所で実施されるようになった。

### (3) 防犯に対する若者の意識の定義

地区内にある大学の学生に防犯パトロールへの参加を呼びかけたところ、多くの参加をいただき、若者にも防犯の重要性を認識してもらうことができた。

### (4) 住民に対する防犯活動の周知

住民に対して、パトロールに「拍子木」を取り入れることで、音による防犯活動に周知を、また、「青色回転灯装備車両」によるパトロール活動を実施することで、視覚による防犯活動の周知を図ることができた。

## 5 今後の課題、抱負

活動参加者は、各団体の役員が多く比較的高齢者も多いという傾向があること、また、活動の長期化に伴うマンネリ化の解消などが課題となっている。このようなことから、各種研修会や講習会などを通じ、参加者の防犯パトロールに対する意識の高揚や班のリーダーの資質の向上を図ること、また、新規の参加者の募集を行っていくことが重要であると考えている。

「六会地区防犯パトロール隊」が、今なお、多くの住民の方々により活動されていることに対して心から敬意を表するとともに、この地区の防犯に対する意識の高さに驚いている。

今後も、地元警察署や行政と連携し、地域の有志とともに各種犯罪を未然に防止して、地区内の住民が安心して暮らせる町をつくっていきたいと思っています。



白垣一久氏（中央）

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

ふじひら やすゆき  
**藤平 保之 氏** (伊勢佐木防犯指導員会)  
活動地域：横浜市中区

### 1 活動地域の特徴

私たちが活動している横浜市中区の伊勢佐木警察署管内は、伊勢佐木町等37町、面積約2平方キロメートルと狭く、また、人口も住民登録は約4万人と少ない。

街の風景は、その昔、伊勢佐木町ブルースにも歌われた「伊勢佐木町」のモール街などの大商業地、繁華街のほか、福富町を中心とした歓楽街、ドヤといわれる簡易宿泊所が密集する寿町など、他の地域には見られない街の景観がある。

### 2 防犯活動を始めた経緯

私が防犯指導員になったのは昭和50年7月であり、29歳の時である。地域から推薦され、警察署長、防犯協会長の連名により防犯指導員に委嘱された。

当時会員は16名で、年齢は40～50歳代の人ばかり。一番若い人でも37歳であり、29歳の私は若干異色の存在であったようにも思われる。しかしその若さから諸先輩からは可愛がって頂き、防犯に関する様々なことを教えてもらうことができた。現在の防犯活動に取り組む姿勢はこの頃に培われたものと思っている。

### 3 防犯活動の内容・方法

現在の伊勢佐木防犯指導員会は11名で、指導員会発足時から活動している三好会長のもと、警察署や防犯協会との連携をとりながら様々な取り組みを行っている。

基本的には、毎月10日の「防犯の日」に実施されるパトロールや各種キャンペーンへ積極的に参加。また町内会や地域団体と毎月20日に合同のパトロールを実施したり、小学校の登下校時の見守り活動を月に2～3回実施している。

最近マスコミを賑わしている振り込め詐欺の防止に向けてのキャンペーンも機を見て実施しているところである。また、祭礼等イベント会場周辺の警戒パトロールや、違法ドラ・捨て看板の撤去等、環境浄化活動への取り組みも随時平行して実施している。

そのほか当指導員会では様々な犯罪予防のための「防犯いろはカルタ」を平成16年に作製した。これを使ってカルタ会を開催したり、地域の幼稚園や小学校の新生児に毎年無料配布する活動も継続して実施している。このカルタの特徴は読み札の下部に防犯指導の助けになるようコメントを記載していることである。これは家庭や学校などで行うときに大いに役立つものと自負している。



伊勢佐木防犯指導員会作製の「防犯いろはカルタ」

#### 4 防犯活動の成果

##### 【犯罪の減少】

伊勢佐木警察署管内では、犯罪発生件数が平成15年の3,271件をピークに毎年減少を続けており、平成20年は1,922件とピーク時に比べてマイナス1,339件と大幅に減少した。

この成果には、警察の努力はさることながら、各防犯ボランティアや地域の人たちが防犯意識を高め、自主防犯パトロールなど各種防犯活動を行ったことも一部寄与していると思う。

##### 【住民の結束力】

防犯パトロールなどを定期的に繰り返し、継続的に行ったことによって、町内会や地域住民との強力な連携と協力関係が生まれ、結束力が高まったように思う。

#### 5 今後の課題、抱負

今、私たちの防犯指導員会にとって大きな課題は会員の高齢化と新たな防犯指導員のなり手がいないことである。それと同時に活動資金も問題の一つとなっている。

現在は会員の拠出する会費と、防犯協会からの助成金等によって活動しており、日常の活動資金としては足りている。しかし大きな活動や新たな活動の展開に当たっては全く足りる状況にない。

「防犯いろはカルタ」のストックも底をつき、新年度には子供たちに贈ることができなくなっている。新たに増刷するにも資金はなく、理解者からの寄付も今は難しい状況からこの活動は断念することにならざるを得ない。

今後は資金の問題をクリアーしてカルタを増刷し、できるだけ子供たちに贈り続けていきたいと思う。また新人の確保はもとよりであるが、会員の高齢化に見合った新たな活動を模索して行かなければならないと思う。



キャンペーン中の藤平保之氏（右側）

## 犯罪のない安全・安心まちづくり功労者表彰

わか い しげ こ  
**若井 成子 氏** (秦野防犯指導員連絡会副会長)

活動地域：秦野市

#### 1 活動地域の特徴

私たちの活動する秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、北方には神奈川県屋根と呼ばれている丹沢山塊が連なり、南方には渋沢丘陵が

東西に走り、県内で唯一の典型的な盆地を形成している。

市内を流れる河川の多くは、その丹沢山塊の丘陵線の合間から発しており、秦野盆地内には、



中央部に塔ノ岳に源を発する水無川が流れ、その東に三ノ塔からの葛葉川、山塊東部のヤビツ峠方面からの金目川が流れている。

市内には多くの湧水地があり、その清水は古代から人々の暮らしに利用されてきており、秦野盆地湧水群として、全国名水百選にも選ばれている。

気候は比較的温暖であり、丹沢の美しい緑と数多くの歴史的文化遺産を有する街である。

## 2 防犯活動を始めた経緯

以前は、地域のつながりも強く、治安の良かった秦野市も、住民同士の関わり、つながりの希薄化が進み、それと同時に年々犯罪が増加傾向となっていた。

そこで私は、地域住民の不安を軽減するため、そして犯罪から自分達のまちを守るためにも、住民同士の連帯感・信頼感を築くことが必要だと感じるようになり、平成元年に、秦野防犯指導員連絡会の防犯指導員として活動を始めたのである。その当時から役員として、また平成9年からは副会長として、地域住民とともに、日々安全なまちづくりを目指し活動している。

## 3 防犯活動の内容・方法

秦野防犯指導員連絡会は、現在33名で構成され、防犯協会と警察が行う防犯活動に協力して防犯広報、防犯指導等を行い、地域住民の防犯意識の高揚を図っている。

### 【活動内容】

- (1) 秦野市防犯協会、自治会等と協働で防犯パトロールを実施
- (2) 青色回転灯搭載車両による車両広報を実施
- (3) 春の地域安全運動期間中のキャンペーンに参加
- (4) 夏の地域安全運動中に行われる市内各地区納涼大会会場の周辺パトロールを実施
- (5) 各地区で行われるふれあいまつりで啓発活動を実施

- (6) 秋の地域安全運動期間中のキャンペーンに参加
- (7) 年末年始特別警戒期間中のキャンペーンに参加
- (8) 不定期だが、その時々々の犯罪発生状況から緊急キャンペーンなどを実施

## 4 防犯活動の成果

各地域での防犯パトロールや青色回転灯搭載車両による車両広報、防犯啓発キャンペーンなど、地域住民と協働して活動をしてきた結果、平成14年の犯罪ピーク時の3,256件から年々減少傾向にあり、平成19年には1,593件と、マイナス1,663件（51.0%）となった。

## 5 今後の課題、抱負

市内の犯罪件数は減少傾向にあるものの、振り込め詐欺、空き巣や住宅街での車上狙い、自動車・オートバイ盗などの乗り物盗など、市民生活に身近なところで各種の犯罪が発生しており、残念ながら住民が肌で感じる体感治安は必ずしも良くなっているとは言えず、犯罪を未然に防ぐ抑止の努力がますます求められてきている。

防犯の基本である、個人の防犯に対する意識付けはもとより、隣近所との「声かけ」や「あいさつ」から始まる地域防犯活動への参加など、「自分の身は自分で守る」、「地域の安全は地域が守る」という姿勢が何より大切だと思う。今後も、安全で安心して暮らせるまちづくりを地域住民とともに進めていきたい。



若井成子氏（右から二人目）



## は や ま じ ち か い イトーピア葉山自治会 (昭和53年1月設立)

活動地域：葉山町

### 1 活動地域の特徴

葉山町は御用邸のあることでよく知られているが、町の大部分は小高い山地で、平地は極めて少ない。

我々が活動しているイトーピア葉山団地は町の北端の高台にあり、3方を山に囲まれた花咲き、鳥歌う里で、場所によっては富士山を望むことが出来る。

規模は560戸で、例外を除きすべて1戸建である。地区計画により商業施設は原則禁止で、最寄りの逗子駅まではバスで10分の距離にある。5年ほど前に団地のすぐ下を走る逗葉新道から葉山の海岸に抜けるトンネルが開通し、団地内を通過する車が激増している。また、分譲開始から約35年を経た団地であるので、高齢化の波がもろに押し寄せている。

### 2 防犯活動を始めた経緯

イトーピア葉山団地ではかねてより空き巣がかなり多く発生していた。手元の統計数字を参考までに示すと、平成14年からの年度別発生は9、1、12、6、6件となっている。

これではいけないと平成18年に自治会の傘下にボランティアで「安全・安心まちづくり会」が結成され、定例パトロール（4回/月）を開始すると共に、防犯腕章や車に貼る防犯ステッカーの配布、また家の周辺と夜道を明るくする照度アップ運動など諸種の防犯活動を組織的に行うようになった。

### 3 防犯活動の内容・方法

その後も防犯活動は段階的に強化、拡充され、下記の現状となっている。

#### 【防犯パトロール】

##### ①定例パトロール

毎土曜 20：00～21：00

参加者15～30名

防犯腕章・ベスト着用、日誌記入

##### ②青色回転灯装備車によるパトロール

4回/週

防犯腕章・ベスト・帽子着用、日誌記入

##### ③その他パトロール

団地内を歩く時は、防犯腕章をつけ、人に会ったら挨拶をする

##### ④年末年始特別パトロール

12/30～1/3 20：00～21：00

#### 【訪問者プレート】

訪問者の車には各戸に備えてある訪問者プレート（名前入り）をフロントガラスに掲示する。

#### 【空き巣対策10ヶ条の制定と高札掲示】

空き巣対策について全戸を対象にアンケート調査を行い、その結果を踏まえて全戸で実施して欲しい空き巣対策10ヶ条を制定し、2ヶ所の公園に高札で掲示した。

#### 【防犯腕章】

各戸に有償配布を働きかけ、現在では69%の所持率になっている。

### 4 防犯活動の成果

頻発していた空き巣の発生は平成19年6月以降ピタリと止んで、0件が今まで続いている。また、訪問者プレートの導入により路駐の車が激減し、照度アップ運動により夜間の団地は明るくなり、防犯腕章の着用率も徐々に上昇している。

### 5 今後の課題、抱負

最大の課題は空き巣発生0件をいつまで継続出来るかである。隣接の団地では昨年に2件の発生があった。内1件は我々の団地との境界付近で発生している。空き巣犯の魔手がすぐそばまで伸びていると考えざるをえない。（最近では近隣で空き巣が発生した場合でも、その情報を全戸に即報し、注意を喚起することにしてい

る)

## 6 団体のPR

イトーピア葉山自治会では安全・安心まちづくりをメインテーマに掲げ、防犯活動にとどまらず、交通安全、防災対策、AEDの導入準備・・・等に積極的に取り組んでいる。



定例パトロール中のイトーピア葉山自治会の皆さん

## 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

かねこ とらすのけ  
**金子 虎之助 氏** (平塚市防犯協会防犯指導員部会副部会長)

活動地域：平塚市

### 1 活動地域の特徴

平塚市は神奈川県東部にあり、南は相模湾に面し、西は金目川、東は1級河川の相模川が流れ、北は八王子から国道1号線までの国道129号線が通っています。

また、旧国道1号線では夏に湘南平塚七夕まつりが開催されます。市内中央には、江戸時代徳川家の中原御殿という狩場が存在していました。

また、東から西へと県道44号線の大山街道があり、正月の期間などはとても渋滞しています。平塚市は交通量も多く、夏休みの期間等は特に注意が必要です。

気候は、1年を通して四季の香りのする穏やかな地域にあります。

### 2 防犯活動を始めた経緯

まだ、今のような組織になっていない昭和50年代初期に一度、防犯指導員を経験していました。その頃にはまだ、今のような活動ではなく、一部の間にて行われていました。その頃の私の活動は、職業が自動車関係でしたので独自にミニパトを造り、許可を得てパトロールを行いました。

その後、自治会の推薦により、平成13年に防犯指導員としての活動を再開しましたが、その際には、以前のような活動ではだめだと感じました。一つは、経済発展があり、世の中が先走っているような感じで治安の事を忘れていたようでした。その為には活動をもっと活発にして、市民一人一人に防犯活動を知ってもらう為、特別に地域での防犯推進大会を開催したところ、約340人の参加者による大会が出来ました。この大会には、平塚市長をはじめ平塚警察署長や湘南警察犬学校の方々にご協力を頂き、お陰様で地域の防犯活動もこれを機に盛んに行われています。

### 3 防犯活動の内容・方法

現在防犯活動は、協会での活動と地域での活動、また、私個人としての活動によって行っています。

協会での活動は防犯指導員、婦人部長、協会委員、警察官など毎回約40名位で行っており、毎月10日の防犯の日には駅頭キャンペーンで、駅周辺での防犯チラシを配布して呼びかけ、駐輪場では自転車の鍵の診断や防犯ネットの呼びかけを実施しています。また、市内のまちかど

広場では防犯のデモンストレーションを行うなど、市民への啓発を図っています。

地域の防犯活動は防犯委員をはじめ、自治会、各種団体等に呼びかけ、約220名で学校の夏休み開始から12月下旬までの間、毎週金、土曜日の隔週に地域を4コースに分けて、2コースずつ夜間パトロールを実施し防犯灯の点検や未成年者へのアドバイスを行っています。

私個人の活動としては、青色パトロール車で週の犯罪に応じた防犯広報や夜間パトロールを家族と共に市内の半分を回っており、週に3回または随時実施しています。その他、年に2、3回は27日の交番の日に民警合同パトロールを自治会等と行っています。

#### 4 防犯活動の成果

安全で安心の街づくりに基づき、平塚市では各支部がそれぞれ活発な防犯活動を実施しており、少数から多数の団体等の協力が今までとは違い、市民一人一人に防犯意識が広まりつつあります。しかし、まだまだ油断はできません。

全市においては、件数では減少してはいますが、新しい手口の犯罪が発生しつつあり、先が不安な状態ではないか！

交通ルールとは違い、防犯ルールは人々に認識しがたいだけに一時は良い結果が出るが気が許せない！防犯活動をしていて、多くの人は自分は被害に遭わないと思っている人が多くみられ、後で被害に遭って後悔する人も多く見られます。

全市においては、防犯灯の照度アップにより明るくなって、その種の犯罪は減少しました。しかし、防犯活動を日常的に行う事と行わない

事では成果の違いがはっきりとわかります。習慣になるように心掛けたいですね。防犯には備えあれば憂いなしです。

#### 5 今後の課題・抱負

平塚市全体では、明るい所や暗い所、賑やかな所、さびしい静かな所、それぞれの特徴があります。このような地域での防犯活動はその場所に合った活動をしなければ成果が出ないと思います。

例えば、繁華街等はいろいろな人が出入りし、地元以外の人も多いと思います。その地域の様子を把握する事が必要です。また、ゲームセンターや若い人の集まる場所も共通すると思います。一般の地域では、人と人との付き合いを重んじ、そしてお互いの気持ちを語り合うような助け合い運動が防犯につながると思います。

平塚市全体を市民一人一人が自分の家と思い、責任ある市民で安全で安心の街づくりを目指したいです。



パトロール中の金子虎之助氏（運転者）

# 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

たなべ せいいち  
**田邊 精一 氏** (元綱島本町自治会長 元港北防犯協会常任理事)

活動地域：横浜市港北区

## 1 活動地域の特徴

私達の活動する港北区は、人口約32万3千人、世帯数約15万世帯、面積は約31.4km<sup>2</sup>で、横浜市内最大の都市です。

また、交通機関は、JR 東海道新幹線、JR 横浜線、市営地下鉄ブルーライン・グリーンライン、東急東横線の鉄道があり、道路は、第三京浜道路、環状2号線が走り、交通の利便性は極めて良く、大規模団地や日産スタジアム、横浜アリーナ等大規模施設をはじめ大型商業施設等が開業し、10年後には、約35万人に人口増加が見込まれています。

その中で、綱島地区は、港北区の中央に位置し、古くは綱島温泉で賑わい、現在は、東急東横線綱島駅を中心とした繁華街と放射状に住宅街が広がり、事務所が点在する地域で港北区内でも犯罪の多い地区です。

## 2 防犯活動を始めた経緯

平成17年に港北警察署と港北区役所が窓口になり、多発している街頭犯罪等を抑止するために「安全で安心な明日を」をスローガンに港北AAA 作戦会議（港北安全・安心まちづくり推進協議会）設立に伴い、各地区に様々な働きかけがありました。

私は以前、地区の自治会長をしていたり、港北防犯協会の理事をしていた関係で、地域のまとめ役として、防犯ボランティアに従事することになったのです。

横浜市立北綱島小学校では、PTA、自治会、行政等が中心となり、子ども安全対策をすることになり、平成18年に『こどもたちの「A 安全、A 安心、A 明るい未来」を守る!』をスローガンに北綱島小学校北つな AAA プロジェクトが立ち上がり、北綱島小学校見守り隊ができ、子ども安全対策を始め、防犯パトロールをするようになったのです。

## 3 防犯活動の内容・方法

私達北綱島小学校区防犯連絡会は、綱島地区連合自治会（13町内会）の中の綱島東町自治会、綱島上町自治会、綱島西広町自治会、綱和会、北綱島自治会、綱島住宅自治会、綱島本町自治会の7自治会が中心となって約60名で構成されています。

活動は毎週木曜日、北綱島小学校区を3班に分け、約30名で防犯パトロールをしている他、構成員の学援隊のメンバー10数名により、PTA と校外委員と連携して、毎月1日と10日の「子ども安全の日」の登下校時間に子どもの見守り活動をしています。

活動範囲は、南東に東急東横線綱島駅、北に市営地下鉄グリーンライン日吉本町駅がある綱島公園北西の閑静な住宅街です。

## 4 防犯活動の成果

防犯パトロールを始めた3年前は、パトロール中に警察の事件処理をする車両をたびたび見掛けましたが、現在は、まったくその様な事もなくなりました。

綱島地区では、刑法犯の認知件数も、平成18年中、835件だったものが、平成19年には、697件と-138件となり、特に空き巣は-22件、自転車盗-47件と減少し、平成20年も減少しています。

住民等の結束力等については、皆意識が高く、特に連絡をしなくても自主的に集り、活動しています。また、夜間パトロールの参加者には、毎回、警察で情報提供し、港北区役所地域振興課から情報発信している防犯メールを配布し、私達の地域の犯罪情勢を再確認して、意識を高めています。

## 5 今後の課題、抱負

今後の担い手については、現在、シルバー世代中心な為、若い世代を取り込みたいとは思っ



ていますが、若い世代は仕事をして、子育て中の事もあり、ボランティア活動に時間をかけるのは難しいと思います。

経費については、各自治会から毎月2千円をいただき、7町会分、合計1万4千円で活動していますが、経費については、防犯ベスト等購入にあてています。

今後については、シルバー世代の構成員と小学校PTA等の若い世代により連携を密にして活動を進め、綱島地区の安全で安心なまちづくりに貢献したいと思います。



田邊精一氏（一番左）

## 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

### いしがみだい 石神台ガーディアン（平成16年4月設立）

活動地域：大磯町

#### 1 活動地域の特徴

平塚との境を流れる花水川を渡ると山と海に囲まれた大磯です。この自然豊かな環境は二宮まで約10キロに亘って続きます。

名所旧跡も多く宿場町として栄えた本陣跡や、わが国最初の海水浴場として大磯海水浴場が照ヶ崎海岸に開設されました。

「夜明け前」や「破戒」を書いた島崎藤村も2年余りこの地に住んでいます。

私ども石神台ガーディアンの本拠地は、大磯町の西部に位置し二宮町に隣接しています。30年前に開発された丘陵地に732世帯約2,000人が住んでおります。

春の訪れと共に鶯の声が聞かれ、近くを流れる長谷川には蛍が乱舞し、カワセミの姿にも遭遇する深い自然が感じられる土地です。

#### 2 防犯活動を始めた経緯

当地区に防犯団が設立される前の平成14年、15年の年間の空き巣発生件数は連続して10件を超えておりました。不安を感じた住民から防犯団設立の要望の声が挙がり平成16年4月に自治会環境部び下部組織として発足しました。

立ち上げの際にはノウハウ獲得のために初代

代表高橋是氏が奔走され先駆けの平塚の防犯団体にご指導を受けたり、近隣の二宮アクティブの平戸代表より「熱意のある人が4～5名集まれば何とかなる」という助言を受けて苦労の末に立ち上げた経緯があります。

#### 3 防犯活動の内容・方法

現在の団員登録者数は194名、昼間、夕方巡回員151名、夜間巡回員43名から構成されています。

昼間のパトロールは女性が中心になって週2回月曜日と金曜日に実施しています。夜間のパトロールは男性が中心で年間の予定表を作成し3日に1回の割合でマイクと拍子木を使って行っています。拍子木の音を聞くと安心するという住民からの声も聞かれます。町内は1丁目から3丁目まであります。自分が住んでいる丁目を3班に分かれてアップダウンのあるコースを約1時間かけてパトロールしています。

このほかに防犯と交通安全を兼ねた学童の見守りを週3～4日行っています。

青色回転灯・装着車は、3班6台の登録でほぼ毎日運行し機動力を発揮しています。初めて運行した日には小学生が立ち止まって敬礼をし

ていました。昨年は燃料費の高騰もあり担当者には負担を増大させてしまいました。

#### 4 防犯活動の成果

立ち上げる前の空き巣被害件数は毎年二桁の発生を見ましたが、活動を開始した年の平成16年は一桁の7件に減少、2年目の17年が2件、18年は2件、19年が1件、昨年の20年が3件という発生状況です。

この数字から読み取れることは防犯パトロールを実施すると犯罪が減少に結びつくということです。関係者の話では逮捕した犯罪者の口からも「一生懸命パトロールしている街は入りにくい、次の街に行く」と聞き及んでいます。

昨年の10月30日には奇異な事件が発生しました。1丁目に限って留守宅の門扉付近、石垣、道路、電柱、石などに養生テープが約50箇所ほど貼られ、マーキング説からイタズラ説まで飛び交い町内には緊張感が漂いました。

今、一番警戒感を強めていることは独居老人に対する犯罪です。

#### 5 今後の課題、抱負

防犯団体の共通の問題として団員の高齢化が挙げられます。幸いにして次の時代を担う団塊の世代に人材がおります。

経費関係については、自治会基金から資金調達を図っています。

設立当初から今日に至るまで実践してきたことがあります。それは防犯だけに止まらないで住民同士の交流を図ることを目標に置き、お花見、芋煮会、餅つき大会、などのイベントを打ちコミューティーの輪を広げていったことです。

その結果、住民間には挨拶や声かけ、サークル活動などが活発化していきました。さらに防犯活動に対する自治会の後押しもあり新規入団社の加入や自治会役員による交番の日のパトロールへの参加も積極的に行われるようになりました。

今後は、このような気運の高まりを逃すことなく若い世代にも20日に1回、1ヶ月に1回の参加を呼びかけ住民全体を巻き込む形でセーフティネットを張っていきたいと考えております。

#### 6 団体のPR

- (1) 防犯のぼり旗50本を設置。毎年一回、団員から標語を募集しています。
- (2) 防犯灯、街路灯を40基、新設、増設し街全体をライトアップしました。
- (3) 公民館に固定式の青色回転灯を設置しました。
- (4) 日ごろの活動に対し子供会より感謝の寄せ書きが贈られています。
- (5) 学校の休みが交番の日当たる時には子供達もパトロールに参加しています。
- (6) 毎月一回13人で構成された世話人会を実施し情報や意見交換を行っています。
- (7) ホームページを設けて、情報の共有化を図っています。
- (8) 地震などの災害発生時には救助活動を行う体制を整えています。
- (9) 毎月の活動記録を取りまとめて町、小学校、警察、自治会あてに報告しています。

防犯活動を緩めると犯罪は確実に増加に転じます。時折、初心を手繰り寄せて継続・活性化を目指します。今後ともご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



石神台ガーディアンの方々

# 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

いわはらしばらくきんときたい

## 岩原暫金時隊 (平成17年7月設立)

活動地域：南足柄市

### 1 活動地域の特徴

私たちの活動する南足柄市岩原地区は、市の史跡探訪コースにも選ばれ、由緒ある歴史遺産と、箱根外輪山の豊かな緑と水に恵まれた地である。世帯数1,500余、約4,300人が住む市内有数の大規模自治会で、その生活圏は、平地部の市街地から山側に向かって住宅が広がる地域で半ばが山林に囲まれた地域性を持っている。

生活実態は、核家族化が進み、高齢者世帯の増加、近代的な集合住宅の建設が近年急増して、古い借家群の無人化など、まちの様相の変化や、都市部への通勤、通学など生活の多様化によって、地域の連帯感の希薄化と山側のみならず、まちなかでも人目の届かない部分が増えているのが、防犯上気がかりなところである。

### 2 防犯活動を始めた経緯

南足柄市は、平成17年1月に郷土のヒーロー金太郎の懲悪にちなみ「暫金時」と銘うって防犯ボランティア活動を提唱し、市民による安全・安心なまちづくり活動が始まった。

当地区では、6月に自治会長経験者を軸に5名の発起人による設立活動を始めた。7月設立を目標に、自治会とその活動母体の地域福祉会、老人会、PTA、その他民生・児童委員等に呼びかけ、6月下旬までに当初の目標であった30名の賛同を得ることができた。

設立にあたっては、行政の手厚い配慮により、市長と松田警察署長の激励を受け、平成17年7月7日に有志による「岩原暫金時隊」を発足させ、翌日から即活動を開始した。

パトロールの実践や広報を通じて当隊の活動が徐々に住民に浸透し、パトロール途上での自主参加や、自治会以外のグループホーム「四季の丘」の加入もあり、現在73名の体制で活動中である。

### 3 防犯活動の内容・方法

年間の主な活動状況は次のとおりで、隊員相互の切磋琢磨により逐年その活動成果の向上を期すよう努力している。

- (1) パトロール活動実績 (平成20年)
  - ①ながらパトロール (専従員43名)  
ウォーキング、犬の散歩など：概ね365日達成。
  - ②グループパトロール (30名)  
児童の下校時の安全指導を主とした地域活動  
週3回 (約120日、1日平均11名)
  - ③青少年の非行防止夜間パトロール (夏季休業中の12日、PTA活動協力)
  - ④安全・安心まちづくり旬間・市の犯罪発生抑止特別対策に伴うパトロール
- (2) 学校、児童の安全
  - ①学校行事時の学校周辺及び校内巡視
  - ②通学路の安全マップづくり協力
  - ③「子ども110番」協力者宅を児童と訪問 (年1回)
  - ④公園等の設置遊具の目視点検 (随時)
- (3) 広報による啓発活動 (資料の有効活用)
  - ①「防犯いわはら」の自治会回覧 (原則毎月発行)
  - ②防犯講演会の実施 (自治会と連携)
  - ③防犯情報の収集と、県や市、警察発行のポスター・ちらしの回覧や掲示。(自治会、スーパー、コンビニ、金融機関等の掲示板を活用)
- (4) 抑止・予防対策
  - ①自転車盗・オートバイ盗防止対策  
駐輪場や駅周辺における二輪車の施錠状況チェックと注意喚起
  - ②青少年の非行防止対策  
たまり場、迷惑行為の情報収集と監視、通報
  - ③地域環境の安全点検



街路灯、交通標識・標示の総合点検や放置自転車の通報

- (5) 自己研鑽及び関係諸団体との連携
  - ① 隊員同士の検討会・勉強会（年3回）
  - ② 行政主催の研修会等へ積極的に参加
  - ③ 学校、青少年健全育成会による講演会や連絡会議を通じての連携強化
- (6) 緊急事態発生時の自主協力  
行方不明者（高齢者）の搜索活動（2件発生、各十数名参加）

#### 4 防犯活動の成果

- (1) 日常生活習慣による「ながらパトロール」と、定常的な「グループパトロール」の併用方式により地域住民との接触密度が高くなっており、地域の「絆」の醸成に寄与している。
- (2) 当地区に関する情報を掲載した「防犯いわはら」の発行により、地域に密着した犯罪情報を周知し、住民の防犯意識の高揚が図られている。
- (3) 市内の犯罪発生状況は、発足した平成17年は325件であり、発足前の平成16年の536件と比較すると約4割減少した。

発足以来減少傾向であったが、昨年は市内全域で増加しており、当地区も11月末現在で前年を上回っている。このことから、住民に対しより一層の防犯意識の向上を図るため、「防犯いわはら」の発行や商店などの掲示板を活用した広報、自治会内各種集会を利用した啓発活動を強化し、行政や警察と三位一体となり、犯罪発生抑止の一翼を担って活動中である。

#### 5 今後の課題、抱負

- (1) 当隊は、有志による任意集団であり構成員の高齢化と後継者問題を抱えている。今後、自治会組織の中で安定的かつ

継続的な活動体制を早期に実現し、有志によるボランティア活動の伝統と防犯モデル地区としての基盤整備を図っていきたい。

- (2) 防犯の自助、共助の体制づくり  
岩原自治会は、53組の組織から成り立っている。現在は7割の組内に隊員が在籍しているが、今後は全組内在籍を実現し、防犯サポートネットワークを推進し、近隣の「絆」の醸成による自助、共助の地域づくりの基盤を確立していくことを当面の目標としている。

#### 6 団体のPR

- (1) パトロールの充実  
毎月、防犯情報とパトロール要領を全員に周知し、「ながら」「グループ活動」の各班は、情報の共有と自立性により年間概ね365日のパトロールを実現。特に親和と協調により円滑に実行している。
- (2) 抑止の実効性の追及  
パトロールと防犯広報の併用、その実施に工夫をこらした防犯の普及、その他乗り物盗対策や街路灯、交通安全、環境の浄化等、まちを明るくするための総合的な見地で活動している。  
同時に、こうした活動の中でできる限りきめ細かく対処するよう心がけている。



パトロール方法を検討中の岩原暫金時隊の皆さん



# 犯罪のない安全・安心まちづくり奨励賞

## ほんごうだいじちかい 本郷台自治会 (昭和49年2月設立)

活動地域：横浜市栄区

### 1 活動の特色

栄本郷台地区は栄区の北西部、JR根岸線本郷台駅の北に位置し、野村不動産(株)の開発により、昭和47年9月から販売を開始した約63ヘクタールのエリアから成る戸建住宅中心の住宅地です。

本郷台自治会は昭和49年2月に結成され、平成20年12月末現在の会員世帯数は1,624世帯となっています。まちは1丁目から5丁目まであり、二方向へのバス道路を中心に形成されています。本郷台駅から飯島地区へ至る道路の両側に面する区域に医院と商業施設が集中して在ります。中央部分の交差点から上り坂の道路が北本郷台に向かって続いています。まちは6ヶ所の公園と小学校が2校、介護施設が5棟在ります。

平成8年に締結された本郷台住宅地区建築協定が平成18年に失効となる事を機に「緑豊かできとある景観を保つまち」を次世代に継承するため、地区計画を策定し、平成20年6月「まちづくり月間」で国土交通大臣表彰の荣誉に浴しました。

### 2 活動を始めた経緯

自治会発足の翌年から飯島地区防犯推進委員会に入り、防犯に関する回覧、防犯灯の点検・整備、役員による防犯パトロールを実施し、昭和62年には栄警察署防犯課の協力を得て活動を継続しましたが、当時は役員のみによる防犯活動でした。

一方、「自治会だより」第1号が発行されて以後、毎号防犯に関する記事を掲載し、自治会員の防犯意識の高揚に努めてきました。大規模な宅地開発が成される途上で時折、空き巣や車上荒らしなどの被害がありました。

栄区内での空き巣、忍び込み、犯罪内容の多様化が報告される中、平成15年12月からは全世帯に呼びかけ、「あいさつ運動」を取り入れた

ブロック別昼間防犯パトロールを主婦を中心としたメンバーで開始しました。平成16年9月からはボランティアによる夜間パトロールを1・2・3丁目の巡回で開始し、現在は4・5丁目まで全地域で展開しています。

### 3 活動の内容・方法

昼間パトロールの平成20年度の参加者総数は1,142名で1班5名～8名で編成し、1・3・5丁目は月・水・金、2・4丁目は火・木・土に午前9時から日没までの任意の約1時間30分、防犯パトロールタスキ、腕章を付け、防犯ブザー、携帯電話を持ち実施しています。

夜間パトロールの平成20年度の参加者数は60名で必ず男性1名を含む3名以上で1班を形成し、午後6時頃から9時までの間に約1時間、1・2・3丁目巡回班と4・5丁目巡回班に分かれて毎週月・水・木・金に防犯チョッキを着用し、拍子木を打ち、防犯懐中電灯を持って巡回しています。

毎回、昼・夜共パトロール日誌に①防犯灯の点検②危険物の有無③道路標識や防犯灯を覆い隠したり、歩行を妨げるはみ出し枝の箇所等、気がついた事を書いて、自治会館又は担当理事に報告します。

平成20年1月から12月までの「自治会だより」には22本の防犯関連記事を掲載しました。又、「その電話、オレオレ詐欺」シールを自治会名で作成し、全世帯に配布しました。この様な全世帯への直接的働きかけを通して、自治会員の防犯に対する意識を啓蒙しています。

同時に「まちの美化」運動を絶えず展開すると共に、G30を強力に推進し、取り残しゴミの根絶、放置自転車の撤去等、まち中の整理整頓を行い、外部から犯罪者が入り込むスキを与えないまちづくりに励んでいます。



本郷台自治会の皆さん

#### 4 防犯活動の成果

自治会地域内の防犯パトロールは犯罪抑止効果に繋がっています。栄警察署から報告される毎月の刑法犯認知件数統計で犯罪の発生件数は着実に減少しています。平成19年（1月～12月）の発生件数は31件、平成20年度の同じ期間では25件と19.4%減少しました。犯罪別では自転車盗、空き巣、窃盗が著しく減少しています。

又、児童の登下校には「学援隊」に登録の父兄が学校の正門をはじめ、通学路の要所、要所で見守りをし、安全に注意している結果、ここ数年児童への犯罪は報告されていません。

#### 5 今後の課題・抱負

長年実施して来ている昼・夜間パトロール自体のマンネリ化と、自治会員の高齢化が進む中で、パトロール参加者も減少していく傾向が出てきています。パトロール活動継続への施策検討と共に若返りを期待しての参加協力の呼びかけが、従来にもまして必要に成ってきました。パトロールの機動化を目指しての車の導入も検討時期に来ています。

犯罪発生抑止効果を期待しての防犯灯の増設

や照明をより明るくする強化灯への切り替え、危険箇所への防犯カメラの設置も検討課題ですが、設置費・修理費・維持費など負担資金の解決も必要です。

「自分たちのまちを、自分たちで守る」との自治会方針のもと、地域に根付いてきている犯罪抑止力の向上を図る各種施策・活動をより活発化すると共に、近隣の自治会へも働きかけを行ったり、地元消防団、及び栄警察署・栄消防署等の諸機関との関係をより密にする中で一層の協力を依頼し、犯罪が発生し難い、起こらない、安全で安心なまちづくりに努めていきます。

#### 6 当会のPR

自治会規約には「会は民主主義の精神に基づき、地域の公共性ある、諸問題をとりあげ、自主的に運営し、住みよい町をつくること」とあります。

その目的達成の為、防犯活動だけでは無く、年2回の消火訓練、応急処置訓練、炊き出し訓練等、の防災活動で火災や地震に備えています。公園の草とり、夏祭り、どんと焼き、65歳以上の高齢者を対象にした月1回のふれあいサロン、自治会内に住む60歳以上の方で構成する若葉会（シニアクラブ）での自主グループ活動（棋楽会、ヨガ教室、健康サークル、ラウンド・ダンス、ピアノ・サークル等）、自治会活動として月1回の散歩の会、体操教室を通じて健康づくりと云う本来の目的に加え、自治会員の親睦と交流を図っています。

平成16年11月に開設しましたホーム・ページに自治会活動の詳細を載せていますので、<http://www.geocities.jp/yshongodai/> を是非とも訪れて下さい。



松沢知事(中央)と安全・安心まちづくり功労者表彰及び奨励賞受賞者の皆さん